

# くらしの真上に メガソーラーが!!

計画をよく知って、きつぱりと意見を言いましょう。



木ノ本放送中継所より西脇の街を望む(上)  
西脇の共産党生活相談所付近から(左)  
エリア表示は推測によります



## 住民に納得のいく説明もないままに

### 市の審査を免れる大きさ

いま木本八幡宮の真上の造成地跡に、巨大メガソーラーの建設計画が進められています。時を同じくして和泉山脈では、東は有功・直川地区から西はこ西庄地域までに5つの大規模太陽光発電所建設計画が持ち上がっています。その中で西庄の計画は、市条例のがれともいえる計画です。開発規模が25haを超えると、事

業者は県と市の両方の審査が必要となりますが、それ以下だと市条例の適用は受けなくて済み、住民同意を必要としないのです。西庄の計画地は、なんと24・95haでギリギリ市の審査を免れているのです。

### おさなりの説明会一回ではダメ

だからといって住民への説明責任を免れるものではありません。県の「認定申請の手引き」には、地元説明を通じて住民の意見を聞き、適切なコミュニケーションを図ることを義務づけています

### 事は急がれる状況

住民の納得を得ないままに、事業者は事業計画の公表を行いました。いま黙っていたら、「住民は納得している」と県に思われてしまいます。しっかりと私たちの意思を示すことが急がれる状況になっています。

## いくら自然エネルギーでも 自然やくらしを壊してはダメ!!

県議会議員 奥村のり子



発電所の計画がいくつもあるようですが、西庄地域でも、事業者の自治会への説明会があったと聞きました。

Q 和泉山脈で巨大な太陽光

A そうなんです。木本八幡宮の北側24・95haを開発して29500枚の太陽光パネルを設置する計画があり、事業者は住民への十分な説明もなく、事業計画を公表しました。県条例にもとづく住民への説明会は一回行っただけであり、周辺自治会では、建設に反対する運動がおこっています。

Q 奥村議員は、原発に依存しないために、自然エネルギーの推進を訴えていたのでは。

A その通りです。太陽光

## みなさんの声を県市に届けましょう

Q 市議会では、和泉山脈への巨大な太陽光発電所の建設



市議会議員 さかぐち多美子

## 住民の声を尊重するよう 県に意見書を送りましたが…

風力、バイオマスなど自然エネルギーの普及が大事だと考えています。でも、自然環境や生活環境を破壊していいという話ではありません。建設の適地性はもちろんですが、なにより住民同意が必要で、和泉山脈は土砂崩れや地滑りが起こりやすい地形・地質だから、森林を伐採する大規模開発は災害の危険性を高めます。それに、パネル設置による景観破壊や反射光の心配があります。法律や条例をクリアしているから大丈夫ということではなく、地域の特性や住民生活への影響などもきちんと考えて、住民の納得が必要で、事業計画の認定申請が出され、住民への縦覧がはじまったら、事業を認定する県に対して、意見や疑問を大いに届けていきましょう。

問題はどのように議論されていますか。

A 和泉山脈の大規模太陽光発電所計画に対する周辺住民の皆さんの反対運動がすすめられ、市議会へも働きかけられています。5月市議会では、

市議会では、有功・直川地区の計画に対して建設反対決議がされ、6月市議会では、楠見地区の計画に対して住

民同意のない建設に対して反対決議が行われ、同時に県に対して市民が不安を抱えたまま建設がされないよう要請する意見書が提出されました。西庄の計画は、県条例のみの適用で済むのです。25ha以上の計画は市条例の適用も受け、事業の影響を受ける自治会の同意書が必要とするのですが、西庄の計画は24・95haなので市条例の適用は受けないのです。だから、認定する県に対して住民の声を尊重するよう市議会から意見を送りました。

事業者の事前説明会は一回されただけで、住民の不安が解消されたわけではありません。計画地には土砂崩れやくぼ地があり、県や市の防災ハザードマップでは土砂災害警戒区域にもなっています。

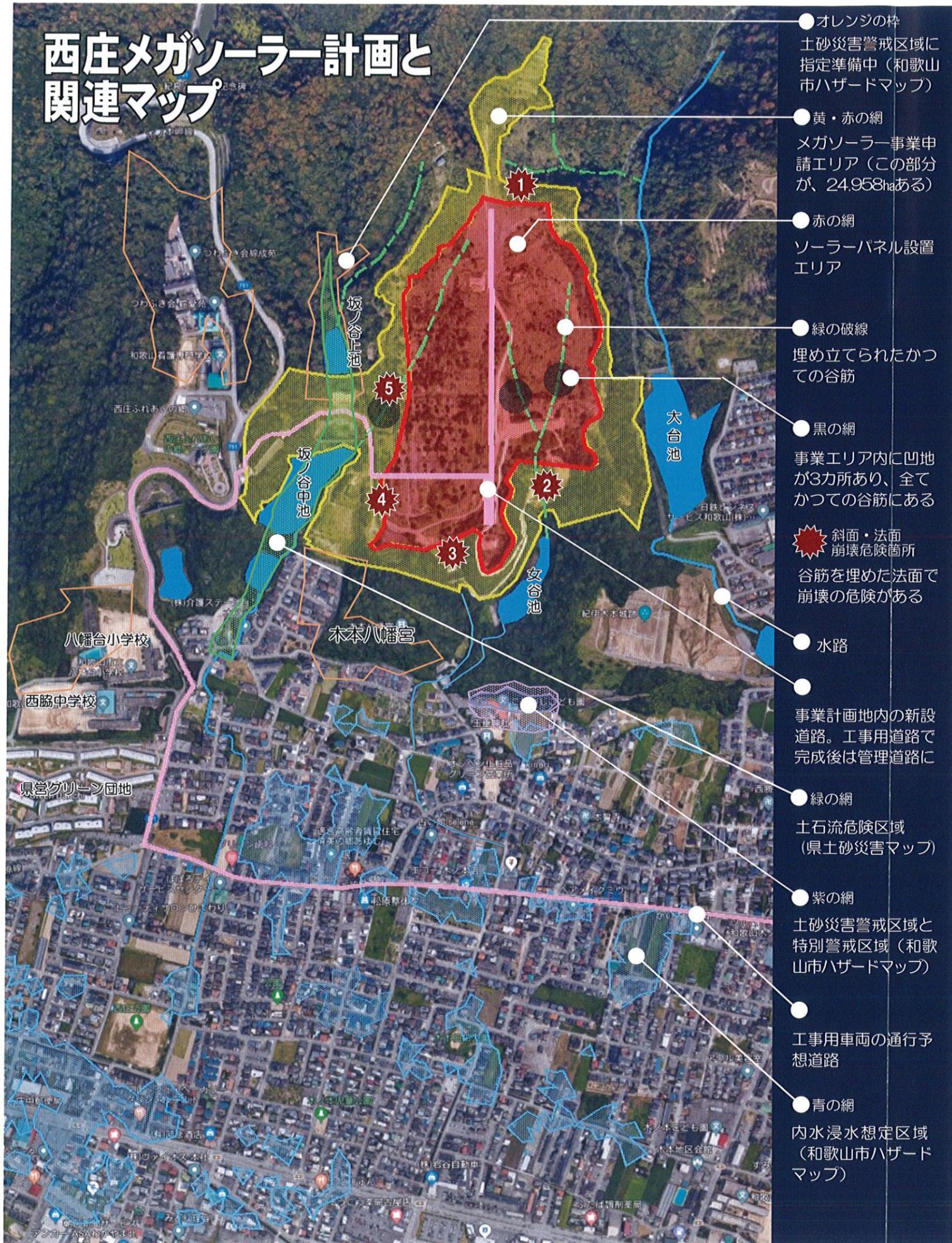
工事用車両の進入路には小学校、中学校や県営団地があるし、完成した発電所は遠隔監視だけとか、事業廃止後どうなるのかという問題や心配事が山積みしています。

みなさんの心配や疑問の声を、一緒に事業者や県・市に届けていきましょう。

## 奥村のり子県議 さかぐち多美子市議に 聞きました



# 西庄メガソーラー計画と 関連マップ



Googleマップと和歌山市ハザードマップ、和歌山県土砂災害マップより作成

# 知れば知るほど 心配がいっぱい!!

## 土砂災害と 洪水の心配

計画地は、谷を埋めた造成地跡ですが、この工事が正しくなされたかどうか疑問です。計画地内には、くぼ地が3カ所あり、すべて谷を埋めた場所です。

●マーク2の所には崩壊の跡があり、いままその危険があります。

●マーク5で崩壊が起こる。パネルが設置されると、山の保水力は無くなり、雨水はほぼ100%下流に流れ、崩壊の危険はさらに高まります。

と、土砂が流出し、坂ノ谷上池から坂ノ谷中池に流れ込み、あふれ出た水は浸水被害をもたらします。この辺り一帯は浸水危険地域なのです。

## 学校近くを 工事車両が

●マーク5で崩壊が起こる。パネルが設置されると、山の保水力は無くなり、雨水はほぼ100%下流に流れ、崩壊の危険はさらに高まります。



### 事業計画の概要

- 事業者名/旭メガソーラー和歌山西庄発電事業
- 事業者名/旭メガソーラー和歌山西庄発電株式会社  
(岡いわけ) 岡山県岡山市南区西市433番地4  
旭電業(株)ソーラー発電事業部  
☎086-243-7921(平日9時~17時)
- 事業所在地/木ノ本女谷1768他16筆
- 事業区域面積/24.9584ha  
市条例の対象は25ha以上
- 発電出力/9.52MW(9,520kw)
- 切土・盛土面積17.4ha、切土12万㎡、盛土12万㎡、土地の最大傾斜20度
- 工事用進入路350m
- 排水計画/敷地内U字側溝を15~30m間隔に敷設し調整池(7カ所)へ調整池からは周辺ため池を経由して水路へ放流する
- 稼働後は遠隔監視を行い、異常発生時の対応は県在住者、協力会社に依頼
- 事業廃止後の機材はリサイクルか処分
- 事業の廃止が予定されている
- 工事は9月着手予定  
パネル設置完工は2022年6月末  
(事業者の自治会説明会、事業計画書より)

## 不安がつのる 業者の対応

25ha以下なら市条例の適用

一面の写真にあるように、美しい山並みにキラリと光るパネルが並び事になります。それは甲子園球場6個半の面積です。慣れ親しんだ美しい景色を壊されたくありません。また反射光による被害も心配です。

## 景観破壊と 反射光被害

一面の写真にあるように、美しい山並みにキラリと光るパネルが並び事になります。それは甲子園球場6個半の面積です。慣れ親しんだ美しい景色を壊されたくありません。また反射光による被害も心配です。

を受けないギリギリというもの、なんだか考えさせられる。かどわか、調べればわかることです。

●一回の説明会だけで私たちの意見を聞かないということが、まず信用できません。完成後の管理については、現地には人を置かず遠隔監視を行うと言います。トラブルには和歌山の協力が社が当たると言いますが、住民への対応はどうするのでしょうか。

●いま現在、地元自治会から事業者と連絡が取れないと聞きます。

### 手続きの主な手順

関係自治会への説明

事業計画の公表(8月8日)

認定申請 事業者が県に申請

- 申請書の住民への縦覧(期間1か月)
- 利害関係者(自治会・住民等)から県に意見提出  
※意見書様式あり  
県環境生活総務課へ
- 県が和歌山市長の意見を聴取
- 県へ事業者が住民・市長からの意見への見解書を提出

知事が計画の認定・不認定を決定